

寄稿

## 技術士包装物流会創立 50 周年を迎えて



技術士包装物流会  
理事 堀内 康夫

我が国の包装 物流技術者の権威が参加する技術士包装物流会は、創設 50 周年を迎えることになり、誠に目出たい意義深いことであると考え次第である。

私と当会の出会いは、50 歳の時、晴海で開催されている東京パックを訪れ、技術士包装物流会のブースで、足を止めたことから始まった。体力、意欲も大いにあり、60 歳定年後はどうするべきか課題を持ち始めていた。50 歳から勉強をし直すには良いヒントをいただいたような気持ちになり、製造工場で、生産管理、品質保証、工場 TOP マネジメントを忙しくこなす中、55 歳の時、経営工学部門、包装物流の技術士試験に合格することができた。

責任ある職務、技術士試験勉強と、人生で一番勉強していた時期と考える。またこの 50 歳は、学校を出て株式会社吉野工業所の地方工場勤務から、江戸城本丸としての本社勤務となり、本社製造部、環境対策部、品質保証部を経験することに加え、創業社長の判断の仕方は、大いに勉強することができた。通勤途中の川口駅で購入した新聞に、技術士試験の合格者が掲載されており、私の名前があった時には、少しばかりの震えが来たことを覚えている。

早速、技術士包装物流会に入会させていただき、白川会長の時代には、研究部会長を仰せつかり、最初は新橋の民間会議室を借り、定例理事会と研究会を開催し、打ち上げは、新橋の親父の憩いの場で親睦会を開き、楽しみであった。技術士包装物流会に入会し、業界の権威者、レベルの高い知識者の皆様から大いに学ぶことができ、常に刺激をいただいている。

技術士のライセンスを持ったことにより、JETRO等の専門家として、海外企業の指導する機会も増え、マレーシアでは延べ1年半、韓国では延べ半年

の、海外支援経験を積むことができた。包装 物流という仕切りを考えずに、不良を減らす、無駄をなくするとの視点に立てば、ニーズは多い。

会員が高齢になり、現在田中会長が進めている若い技術者に技術士試験に合格していただき、会の若返りを進めることは、欠かせない施策であると考えている。